

## 2008年1月から2018年2月までに、膵充実性腫瘍に対してEUS-FNAを受けられた患者さんとそのご家族の皆様へ

膵腫瘍の診療において、膵癌と自己免疫性膵炎や神経内分泌腫瘍などの鑑別診断は、その後の治療方針が大きく異なることから、組織採取による病理学的な確定診断が重要となります。超音波内視鏡下針生検（EUS-FNA）は低侵襲かつ高い診断能を持つ組織採取方法であり、当院でも2008年からこの方法を導入し、膵腫瘍の診断を行って参りました。EUS-FNAの診断成績は腫瘍の大きさや、位置、使用する穿刺針などにより左右されることが、多くの報告で明らかにされております。当院でも、膵腫瘍に対するEUS-FNAの成績や問題点を検討することで、さらなる診断精度を向上や偶発症の予防に繋がれると考えております。今回、2008年1月から2018年2月までに、膵腫瘍に対してEUS-FNAを受けられた方を対象とし、EUS-FNAにより得られた組織検体の病理結果と臨床経過をもとに、診断成績（感度・特異度・正診率）、偶発症の発生率とその内容について調査させて頂くこととなりました。

この試験は、本学の倫理審査委員会によって、試験計画の妥当性が評価されており、患者さんの権利が守られていることや、医学の発展に役立つ情報が得られることなどが検討され、実施が認められています。本研究は、カルテや病院記録などの診療録を利用する観察研究ですが、プライバシーの保護には十分配慮致します。この臨床研究の結果は雑誌や学会で報告しますが、その時も名前や個人を特定できる情報は使用しません。本研究に対する不参加をご表明される場合は研究責任者までご連絡ください。

研究代表者：杏林大学医学部 内科学（Ⅲ）教授

久松理一

研究責任者：杏林大学医学部 内科学（Ⅲ）助教（任期制）

渡邊俊介

〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-2

Tel： 0422-47-5511 Fax： 0422-71-5381